

18歳からの選挙を語る

越谷市市議会議員
きくち貴光

～子どもたちに何を残すのか～ 2015

カフェOB

コーディネーター：辻こうじ
企画・撮影：合同会社ローカルアクセス
発行：18歳からの選挙を語る会
発行日：2015年4月13日
連絡先：090-2676-0148 (okada)

10代の頃を 思い返して

辻…まずは、私たちの10代の頃を思い返ししながら、18才からの選挙を話していきたいと思います。

菊地…18才に投票権を下げる事は良いことだと感じますが、当事者が望んでいないのかは見えてきていないですね。若いころから社会を自ら考え、選択できることは重要だと思う。小・中・高等学校の頃は、児童会や生徒会などで選挙を体験しているが、卒業して大学生や社会人になると、なぜか意識が離れて行ってしまふので…。山梨大学のように期日前投票所を大学の中に設置して、投票権を持つ人も持たない人も含めて、先輩後輩で話ができることは面白いと思う。このような経験で、18才から社会や政治を担っていく事を意識してもらえると期待しています。

辻…当事者の18才の人たちがどう思っているのか、そして、私たち大人がなぜ18才の人に参加してもらいたいか、どう参加してもらいたいのかなどが、大切なことだと思っています。山田さんは、議会では大変少ない社会的な位置の、子育て世代のママさんとして政治に参加してきましたが、18才の頃はどのような感じでしたか。



高校を卒業してからは職場と自宅の往復だけで、政治がどのように「まちづくり」に結びついていくのか感じる事は出来ませんでした。なんとなく、自分あっていそうな若い人を選挙では選んでいたかなと思います。でも、3・11東日本大震災や子育ての経験から、今まで自分が受けているサービスは、政治が決めている物なのだという意識が生まれました。今ある市・県・国の借金も、結局は私たち若い世代が背負うのだから、政治の決定に参加していく事が大事だと思います。

辻…私の頃は学校で、先生や大人が全てを決めていて、一番の当事者である生徒が決定に参加できなくて、すごく反発がありフラストレーションがたまりました。当時の先生に「生徒は学校運営の主体ではないし、生徒会は自治的訓練の場で自治権はない」と言われた苦い経験があります。子どもの意見を認める事ができない息苦しい社会ではなく、お互いに認めあえる社会にしたいと感じていました。皆さんは初めての選挙ってどんな基準で選びましたか。

これからの政治や議会は面白い？

辻…今までの政治は「ご意見は承りました。あとはこちらで判断します」というのが当たり前だったが、どの様に実現されたか、なんで実現されたかがトータルで見えるようにすることが大事。それが無いと実感が持てないから、いくら政治に参加して下さいと言っても届かない。

山田…3・11後に放射能対策を求める請願を、お母さんたちが出して採択されたとき、自分たちの提案で議会が動いたことで「言えば変わるんだ」という実感があった。子宮頸がんワクチン被害の実態調査を求める請願は、不採択になりましたが、そのことを通して新しい仲間との出会いや、つながりになったので、直ぐに達成されなくても動きが少しずつ大きくなっていく事が大切だと実感しています。なんか、ちよつと楽しくなってきたんですね、みんなで議論する事や議会にかかわることが。



辻…え、どういふところが楽しいと感じたの？ 議会はおじさんばかりでママさん的には楽しい要素がないように思うけど(笑)。議会が面白いというよりは、請願や政策を通じて、ママさんたちで話す空間が面白いのかな？

山田…そうですね、もしかしたらそのような「場」を探していたのかもしれないですね。たまたま問題意識を持たなくても、表面上は平和に暮らしている世の中ですが、震災や原発事故を通して未来に不安を感じ、社会に向き合いたい、政治を知りたいと思うママは増えていると思います。

市民と議員の役割をみつめて



菊地..市民と議員の役割も重なっている部分があります。議員はより多くの考え方を集約していくことや、議会の場での決定していくことだと思えます。そして決定したことへの責任を背負っていくことが重要です。その責任を負えないような方は、選挙によって市民に判断されるのだと思います。

山田..議員は「お任せにすれば何でもやってくれる人」だと思っていたのですが、最近では、私たち（市民）の能力を引き出してくれる人だと思えます。請願をしたことで、知らなかった自分に出会えました。一市民として自分には大した事ができないと思っていました。議員さんにはいろいろと教えてもらい、自分の思いを議会で主張することができ、「自分の役割」が市政のなかで見つけられました。

辻..議員として、そういう役割を担っている人は少ないですね。ほとんどの人は市民要望を請け負って実現する事だとかとらえていない。**菊地**..その中でも、更に市長や行政に、お任せをする事としか、とらえていない議員もおられるかもしれませんが（笑）

辻..お任せって、ボタンを押すぐらいの感覚しかないのでは、解決した事の実感を全て奪われてしまう。自分が参加して、「変わった、変えられなかった」という事が大事で、議員の役割として、「参加の場」を作り上げていく事が今の役

割です。最終的に議会が決めるのですが、市民をいかに巻き込んで決めていくのかを重視したい。政策や理念は似通っていたとしても、その認識の有無が決定的な議員の質の違いになります。

子どもたちに何を残すのか



山田..政治って小難しい事ではなく、近所の人やママ同士での何気ない会話の中での疑問点から出発するのだと思えます。だから、子どもたちへの教育も大切ですが、まず大人が、日頃地域とどれだけ接点があるかを問い直し、地域とのつながりによる「豊かさ」を見つめなおすことが重要で、子どもたちはその後ろに続いてくるのだと思えます。

菊地..今現在の子どもたちだけではなく、更に未来の子どもたちに残せるようなものを残していきたい。つまり、持続的な対話による「公共空間」を残していきたい。

辻..今の人たちが幸福になれる社会作りも一つの軸ですが、少し我慢をしても、未来の子どもたちにも軸をずらしていきけるような価値観が、3人の共通しているところでした。通常の子育て支援の一致とは違い、そこがしっかりしていれば、政策の違いがあってもお互いに議論しながら進んでいけると確信しています。このような合意形成の「しくみ」を次世代に残していきたいと感じています。



辻こうじ 【プロフィール】
1975年 春日部市に生まれる
東京都立大学人文学部教育専攻卒業
学生時代は障害者の介助、ホームレス支援、農業ボランティアなど
2003年 障害者団体「わらじの会」関連の介助派遣事業所に就職
2006年 板川市長(当時) 3期目の選挙を地域で取り組む
2007年 越谷市議選で初当選
2011年 越谷市議選で2期目当選

きくち 貴光 【プロフィール】
1971年4月16日 大袋商店街のツバメヤ靴店の次男に生まれる
山梨学院大学卒業
太陽石油株式会社を退社し、世界をより広く深くこの目で見に行く
2000年 代議士の私設秘書
2003年 越谷市議会議員選挙に挑戦。1735票で落選
2007年 越谷市議会議員選挙に再度挑戦。2364票26番目で当選
2011年 越谷市議会議員選挙に再選を挑む。2508票23番目で当選

山田 ゆう子 【プロフィール】
1982年 神奈川県横浜市に生まれる
宮崎県立宮崎農業高校卒業
高校卒業後ディズニーランドの清掃係
2003年 越谷に移り住む
2003年～2013年 夫と浦和にてリラクゼーションサロンを経営
越谷市民ネットワーク運営委員、「5年後10年後子どもたちが健やかに育つ会」スタッフ、「いのちと暮らしを考える会」共同代表

菊地: 私のキーワードは「未来への責任」です。直接意思表示ができないような方々の事も考えて、若い世代も決定した事に、責任をもっていかれるようにしましょう。
辻: 18才も含めて、若いから感じる事というのは大切な視点です。社会の大事な構成員として一緒に越谷をつくってってもらいたいです。
山田: あまり難しく考えずに、「音楽やスポーツをもっと楽しめる街にしたい」など自分の好きな事を入口にして考えるのもいいかも。まず「考える」ことから始めてみてください。

若い有権者の皆様に
向けて一言